



世田谷美術館のワークショップ「創作仮面劇」での如月小春と子どもたち（1987年）

世田谷美術館 トーク 如月小春を読みなおす 「続・八月のこどもたち」から

①2020年2月11日（火・祝）15時－17時
柏木 陽（NPO法人演劇百貨店代表）&
杉田協士（映画監督）

②2020年2月16日（日） 15時－17時
柏木 陽（NPO法人演劇百貨店代表）&
塚田美紀（世田谷美術館学芸員）

会場＝世田谷美術館地下創作室 定員＝各回40名 ※申込先着順、**2019年12月17日（火）**より当館イベント申込フォームまたはお電話にて
参加費＝各回500円

世田谷美術館 <https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>
〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 Tel. 03-3415-6011（代）

世田谷美術館 トーク 如月小春を読みなおす

「続・八月のこどもたち」から

①2020年2月11日（火・祝）柏木 陽&杉田協士
②2020年2月16日（日） 柏木 陽&塚田美紀
各回とも15時－17時

劇作家の如月小春（1956-2000）は、1987年に当館で初めて子どもたちと演劇ワークショップを行い、その経験は以後の彼女の歩みに大きな影響を与えた。また当館も、その後現在に至るまで30年以上、さまざまな形で美術と身体表現をめぐるワークショップを館内で開催し続けています。

如月の没後20年となる2020年、子どもたちをとおして彼女が何を見つめていたのか、ささやかにふりかえる場を設けます。90年代末に書かれた如月の連載エッセイ「続・八月のこどもたち」を手がかりに、演劇、教育、ワークショップ、また身体と表現の現在などについて、参加される皆さんとともに考えます。

柏木 陽（かしわぎ あきら）

1970年東京都生まれ、千葉県育ち。
1990年、大学で如月小春と出会う。アジア女性演劇会議にボランティアスタッフとして参加。その後演劇集団NOISEに入団。2003年、NPO法人演劇百貨店を設立。演劇家と名乗り、全国色々なところで、子どもを中心とした演劇に関心のある人もない人も、障害のある人も、外国から来た人も、おじいちゃんおばあちゃんも、バリキャリの人も、そうでない人も一緒に演劇作りを行っている。都内中高の演劇部の外部講師として上演用台本の提供も行う。現在、和光大学、青山女子短期大学の非常勤講師。

塚田美紀（つかだ みき）

2000年より世田谷美術館勤務。美術館と身体表現の関係に関心を持ち続け、柏木陽とともにワークショップ「誰もいない美術館で」（2004-2013）、「えんげきのえ」（2013-現在）を実施。

杉田協士（すぎた きょうし）

1977年、東京都生まれ。映画監督。長編第1作『ひとつのか』が2012年に、第2作『ひかりのか』が2019年に劇場公開。映画製作と並行して各地の小中高大学、特別支援学校、児童養護施設、美術館などで映画ワークショップを行う。世田谷美術館の年間講座「美術大学」にて10年以上にわたり講師を務める。立教大学在学中の1999年と2000年に如月小春の講義を受講、学生スタッフとして世田谷パブリックシアター主催の演劇ワークショップ「演劇百貨店 ようこそいらっしゃいませ」に参加。現在、女子美術大学非常勤講師。



会場＝世田谷美術館地下創作室 定員＝各回40名 ※申込先着順
2019年12月17日（火）より当館イベント申込フォームまたはお電話にて 参加費＝各回500円

交通案内

東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分、もしくは美術館行バスA「美術館」下車徒歩3分／小田急線「成城学園前」駅南口下車、渋谷駅行バスB「砧町」下車徒歩10分／小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バスC「美術館入口」下車徒歩5分／来館者専用駐車場（60台、無料）：東名高速道路高架下、厚木方面側道400m先。美術館まで徒歩5分

世田谷美術館 <https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>
〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 Tel. 03-3415-6011（代）